インターバンクの声（2017 年 6 月 27 日）

東京市場のドル円は、一日中極端に値幅の狭い取引が続いたが、夕方に発表されたドイツ IFO 研究所の 6 月ドイツ景況指数が期待値、現況評価値ともに予想を上回る発表があった前後から円売り・ドル買いが進んだ。
同じ頃、欧州委員会がイタリア政府の提示した経営難のイタリア地銀 2 行についての破綻処理案を承認したことで、欧州株が上昇して始まったことも追い風になり、111 円 70 銭台まで上昇が続いた。
ただ、ニューヨーク市場の朝方に発表された 5 月の米耐久財受注が予想以上の減少となったことから一旦 111 円 30 銭台まで調整が進んだ。それでも米長期金利が徐々に上昇し、翌日にはイエレン議長はじめ複数の FRB 高官による講演が予定されており、そこでのタカ派的な発言に対する警戒感もあって再びドル買いとなった。
今年前半では 112 円台での滞空時間が極端に少ないこともあって、112 円超えは難しいとの見方が多いが、FRB 高官の発言内容や米 GDP 確報値の結果によっては思いがけないドル高の進行があるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社
お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、 複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。 また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。
本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。